

学校再編に関する豊岡地区住民意見交換会 概要

- ・日時 平成30年1月13日（土）10時00分～12時15分
- ・場所 豊岡福祉センター
- ・市出席者 内田教育長、久我次長（教育総務課長）、
学校教育課 鈴木課長、村澤主幹、平井主幹、野口係長、
教育総務課 川崎補佐、東間係長、沼
- ・一般参加者 27名
- ・他参加者 審議会委員2名

【10:00開会】

- 川崎補佐 : 資料確認、開会
- 内田教育長 : あいさつ
- 久我次長 : 資料に沿って、答申の学校再編案を説明

【10:40質疑】

- 発言者1 : 敷地は決まっていないが、まず登下校の問題が出てくる。子どもが歩いて通うには4キロくらいが精一杯だと思うが、スクールバスを出す場合、その料金負担について伺いたい。また、歩いて通う場合の安全面についてもよろしくお願ひしたい。
- 久我次長 : 新設場所は決まっていないが、通常15,000㎡くらいの土地が必要になる。スクールバスの発着等にもある程度の広さが必要なので、不便のないよう十分検討する。通学の安全のためには本納駅周辺の整備も必要になると思う。
バスの代金は発生しない。他市の例を見ると、バス停の位置やルートの決定などで2年くらいかかると考えている。
- 発言者2 : 説明で今後の人口減少見込や再編の進め方についてはわかった。ただ、本納小学校が危険地域というのは既にわかっていたことで、新治で話が出たのも当然だと思う。
人口が減る中、再編は必要だと思うが、地域住民としては納得がいかない点もある。各小学校で100周年とか行事が終わったから、5年後に学校再編するというのは、心情的になかなか難しい。問題を一つ一つ解決、整理せずに良いことだけ話すのはおかしいので、意見する前に今までの経緯を伺いたい。
- 久我次長 : 新治小は全校43人で、複式学級ができる規模。球技大会も不参加とか、各種行事にも支障がある。実際に3人での授業風景も見て、教育環境として支障をきたしていると感じており、まず新治小をどうするかというのは審議会での共通認識としてあったが、それ以外にも統合を考えていかななくてはいけない小中学校があると認識している。
1つの学校を建てるには長い年月が必要なので、最初は現本納小に新治小を入れる案だった。その場合でも統合までに2年はかかる。
広島のと砂災害を受けて全国で危険区域の調査が進み、平成26年頃から茂原市でも調査が入り、本納小が土砂災害警戒区域に指定される見込になった。
土砂災害警戒区域の意味は、大雨が降って警戒情報が出たら速やかに避難せよということ。崖の地盤は強固で、本納小の保護者からは昔から同じ状態なので心配ないという意見があったが、審議会では一気に最終的な3校統合の形を目指すべきということになった。ただし、新治への対応は検討するようにという要望をいただいている。
- 発言者2 : 崖の区域内は、何か対策しない限り新設や改築できないはずだが。
- 久我次長 : おっしゃるとおりで、現本納小の位置での建設は考えておらず、他の場所を探す方向でいる。

- 発言者 3
 (栗生野) : 11月20日に答申が出たとのことだが、その前の11月10日の新聞に答申案の内容が出ているのはどういうことか。
- 久我次長 : いま市ではほとんどの会議を公開しており、11月8日の会議を記者が傍聴して記事になった。
- 発言者 3
 (栗生野) : 本納小の崖に関しては、平成29年3月に地区への説明があったはずだが、それにもかかわらず最初新治小を本納小に入れる案だったのはなぜか。情報共有ができていなかったのか。
- 久我次長 : 確かに県土木事務所から説明会があったが、情報の共有や開示ができておらず、連携の悪さを審議会でも謝ったところ。
- 発言者 3
 (栗生野) : 本納小から新治小へ行くという考えは審議会では出なかったのか。
- 久我次長 : 話は出たが、現校舎で本納小児童を収容できないことや、将来的に小中一貫や小中連携を考えてこういう答申になった。
- 発言者 3
 (栗生野) : 新校建設まで6～7年かかるという話があったが、近々の課題である新治小を残し、なぜ3校統合という話になったのか。
- 久我次長 : 将来的な3校統合・新設については、最初から出ていた話であり、第一段階の本納新治の統合がダメになったから出たものではない。
 再編の議論は新治があるから始まったわけではなく、市内全域の問題である。新治小の対策については今後考える。
- 発言者 3
 (栗生野) : 少人数学級で弊害がある、その一番大事なところを先送りするのかということを知りたい。
- 久我次長 : 審議会では、本納小を使うことについては地域の理解が得られないという意見。新治小の対策については要望事項として出ており、市教委で考えていく。
- 発言者 3
 (栗生野) : 新治の保護者から聞いた話では、もっと大人数で学ばせたいという声がある一方、母校がなくなるのは寂しいという声もある。しかし、子どもたちのためには前に進まなくてはならない。
 別の意見として、豊岡小はキャパがあると思うが、新治を豊岡にという意見は出なかったのか。
- 久我次長 : なかった。
- 発言者 3
 (栗生野) : スクールバスで10分走れば豊岡に来れる。新校舎もいつかは建てなくてはいけないと思うが、近々の課題である少人数学級解消のために、そういう考えはないのか。
- 久我次長 : 審議会の会議録は公開しているが、豊岡小という意見はなかった一方、豊田小という意見はあった。
- 発言者 3
 (栗生野) : 地域性を考えると、個人的には学校再編には反対である。一番の課題である新治小の少人数学級を解決する方法を考えていただきたい。
- 久我次長 : 今日は結論を出す場ではないので、ご意見として承る。
- 発言者 3
 (栗生野) : 本納中付近は地盤が軟弱で、工事費用もかなりかかると思う。以前市長ともそういう話をした。
 新治でニュータウンの話が進んでいるようだが、子どもが増えたら再開することもあるから、意見として述べておきたい。
- 久我次長 : 本納の地盤について、どこも一律ではないが、例えばほのおか館付近は2mほど軟弱な地盤がある。しかし、硬い地盤も比較的浅い位置にあり、場所が決まれば地質調査などを行い、その土地にあった方法で建設する。
- 発言者 4
 (栗生野) : 自治会回覧を見ると、教育委員会から決定事項のような文面で来ているが、地元とか小学校とかに事前に相談したのか。
- 久我次長 : 昨年3月に作った基本計画については、本納中でも説明会を行った。また、8月9月に行った再編案についての意見交換会についても、自治会回覧などで全域に周知して行った。
- 発言者 4
 (栗生野) : 先ほどもあったように、豊岡への説明前に新聞に出て、答申も出ている。子どもにとって再編はいいことだと思うが、新治や本納で決定前に何回も説明しているように、豊岡にも事前に出してほしかった。
- 久我次長 : 8月9月の意見交換会は全域を対象としており、豊岡を除外してはいない。答申は出たが、実施計画はまだ確定していない段階である。

- 発言者 4
(栗生野) : 今後、教育委員会から豊岡小 P T A に説明をしていただけるのか。
- 久我次長 : 11月25日に保護者への説明を行い、参加者は8人ほどだった。他の地区と比べて少なくはないが、もっと関心を持ってもらうのは大事だと認識している。
- 発言者 4
(栗生野) : 出席できなかった父兄への対処はどうするのか。手紙とか回覧とかでこの件に関して承知してもらっているのか。
- 久我次長 : P T A の中で議決してもらうのではないということをご理解いただきたい。スクールバスなどについては、今後地域と連携しながら進めていく。
- 発言者 4
(栗生野) : これは決定ではなく、これから話し合いを進めていくということによいか。
- 久我次長 : 地域との話し合いを進めていくというより、答申をもとに市内部で協議し、目指すべき方向性を示していく。
- 発言者 5
(南吉田) : 再編は必要だと思うが、子どもの権利条約という面から、年齢に合わせた説明をし、子どもたちの意見を聞いてほしい。その際は、教育の一環として子どもたちなりに考えられる機会を作ってほしい。
- また、子どもの減少をネガティブだけに捉えず、例えば小中一貫校なども含めて教育改革のチャンスと考え、住民に説明しながら考えてほしい。
- 小学校がなくなることは地域住民にとって重大なことなので、新しい学校を建てたら終わりではなく、地域の活性化についても全庁で考えていただき、明るい展望を抱けるようにお願いしたい。
- 最後に、こういった説明会を定期的に開催していただきたい。
- 鈴木課長 : 教育については、いま子どもたちが置かれている環境と、成長して社会に出て行った先という2点から考えるべきだと思っている。平成32年から新しい学習指導要領が始まるが、人工知能が発達し、それに伴い職業も変わる、それに即した教育が必要と言われている。社会が目まぐるしく変わっていく中で、子どもたちが生き抜いていく力を身に付けさせなくてはいけない。一方、知識や技能面の習得は人数が少ないほうが効果が高いこともある。
- これからは、たくさんの子どもたちの意見を聞く中で、自分が考えることを表現するという教育に転換する方向だと考えており、そのためにはある程度の人数が必要というのが、教育委員会の考え方である。
- また、いまの保護者からは、小さい集団から大きい集団になったとき、なかなか人間関係を築けずに実際困っている、小さいうちから大きい集団で生活させたいという声も聞いている。
- 子どもたちの意見を聞くのは必要だと思うが、これからの求められる教育のことはわからない点もあると思うので、学校や教員から投げかけながら、学校教育を行っていききたい。
- 久我次長 : まちづくりや跡地利用については、市の総務部門、企画部門などと連携して考えていくので、要望として承る。例えば西陵中の跡地についても今後詳しく検討することになるが、柔軟に対応していきたいと考えている。
- 発言者 6 : 推計では3校統合しても2040年にはまた200人ちょっとになる。教育は100年先を見据えなければならない。人が少ない前提で考えているが、子どもたちが少なくならない施策を考えるのが筋ではないか。
- 久我次長 : 少子化については、未婚化、晩婚化や一家あたりの子どもの数が減るなど、対策が難しい面もあるが、産前産後や子育てのサポート、医療費助成など支援は積極的にやっている。
- また、現市長は、茂原に住民が住んでもらえるよう、就任してから企業誘致や雇用確保に力を入れており、ジャパンディスプレイや沢井製薬など誘致できたし、にいほる工業団地への進出も順調に進んでいる。一方では産科の問題などもあるが、何もしていないわけではない。
- 発言者 6 : それによって人口が上向きになれば、この前提が崩れるのではないか。
- 久我次長 : 増加というのは非常に難しい。本市の人口ビジョンでも、減少を緩やかにするという目標で取り組んでいる。

- 発言者 7
(栗生野) : 人口減少の問題については、地元で育った人が離れていかないようなまちづくりを期待するし、私たちも考える必要がある。
単学級や複式学級は、子どもたちのためにも避けたいと考えている。小中一貫校の話があったが、新設の際は本納中の空き教室を使うとか、小中一貫校をイメージして進めてはどうかと思う。
- 鈴木課長 : 子どもたちが離れていかない施策について、いま学校では、地元のことを学んで愛着を持つように「茂原学」というものを行っている。
- 発言者 8 : 11月25日の豊岡小意見交換は8名ほどしか参加しなかったが、それでも十分と聞こえた。一番子どもたちと接する保護者の意見をもっと広く聞き、大事にしてもらいたい。
- 発言者 9
(栗生野) : こういう意見交換会などのアナウンスは、1回だけでなく何回も行い、積極的に人を集める努力をしてほしい。
本納、豊岡、新治では、毎年ソフトドッジボール大会を開催していて、本納小と豊岡小は任意の参加だが、新治小は人数が少ないため、参加必須かつ出づっぱりという話を聞いており、ちょっとかわいそうに思う。ある程度の人数は必要だと思うので、なるべく早く少人数の解消をお願いしたい。
- 発言者10
(萱場)
久我次長 : 結局のところ、6～7年は現状維持で、その間に新設を進めていくという考えなのか。
実施計画はこれから作るが、新設するまでにはそれくらいの時間がかかる。その間新治小は現状のままということではなく、答申の要望事項にもあるように、交流事業も含めて何かしら対策を考えていく。
- 発言者10
(萱場) : 進んでいく方向、子どもたちのためにということは理解できたが、それが最も大きな課題なので、2～3年のうちには対策を示してほしい。
- 三橋議員 : 豊岡小は将来だと思っていて、こうなるとは思っていなかった。
まず、豊岡での意見交換会が答申後になったのは、進め方が違うと思う。
答申では、最も優先すべき新治小の解決策が示されておらず、先送りしただけと言わざるをえない。これから考えていくということだが、「速やかに」という言葉とも矛盾するのではないか。
本市の財政力で新設が可能なのか疑問だが、その点を伺いたい。また、3月に作る実施計画がどういうものになるのか伺いたい。
- 久我次長 : 実施計画は、最初の4年間ないしその後の5年間に行う内容やスケジュールを示すもので、核となるのは、既に決まっている西陵中と富士見中の統合、答申にある二宮小と緑ヶ丘小の統合、本納新治豊岡の統合の3つと考えている。
建築の計画ではなく、再編の枠組みなどを示すものになる。
財政力の問題については、今後財政部局と協議していくが、どの学校も老朽化が進んでおり、残した場合の改修費用も考慮することになると思う。
- 発言者11 : 3校のPTAで、何か合同でイベントができないかと話をしている。その際は、地域や各団体にもぜひご協力をお願いしたい。
- 中山学校再編
審議会会長 : 学校再編は、地域や茂原市の子どもたち全体に関わることで、皆さん真剣に考えていただいていると思う。いろいろ意見はあると思うが、最終的には将来の子どもたちのためにどうするか。今までの歴史も大事だが、時代に沿って変えたほうが良いこともある。
審議会では、子どもたちの環境を考えて審議してきた。答申が必ず正しいとは思わない。皆さんからの意見で案が変わることは良いと思う。大事にしてきたのは子どもたちの環境、少人数学級のままで良いのか、つまりは適正規模という観点である。

【12:15閉会】